

令和5年度練馬区立旭町小学校 学校評価報告書

練馬区立旭町小学校
校長 清水 誠

1 自己評価結果

(1) 概要（成果・課題及び改善策）

【児童アンケート結果および保護者アンケート結果】

① 学校についての内容（学習指導）

- ・「学校は授業を工夫し、わかりやすく指導している。」の項目では、肯定的な回答をした保護者と児童の差が6ポイントだった（昨年度比+1ポイント）。今後はさらに授業力向上に努めるとともに、より分かりやすい授業を実施していく。
- ・タブレット等のICT機器を活用した授業の工夫については、27%の保護者の方から否定的な回答であった（昨年度比-2ポイント）。今後も、個別最適な学びがICT機器を活用した学習の中で達成していけるように、教員の研修を充実させ効果的な指導を行っていく。

② 学校についての内容（教職員の対応）

- ・子どもの悩みについては、教員、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員等が連携を図りながら継続して対応していく。
- ・保護者や地域の方々との活動については、肯定的な回答をした保護者の割合が、昨年度比で3ポイントプラスだった。来年度も青少年育成第六地区委員会、町会、PTAと協力して活動を進めていく。
- ・施設設備等については、引き続き安全点検を定期的に行っていく。

③ 児童についての内容（学習指導）

- ・主体的な読書については、肯定的な回答をした児童の割合が、昨年度比で5ポイントマイナスだった。今後はさらに意欲的に読書に取り組めるような活動を工夫していく。
- ・家庭学習については、肯定的な回答をした保護者と児童の差が11ポイントだった。（昨年度比±0）今後は、基礎基本がより身に付くように、東京ベーシックドリルやタブレット端末から使用できるドリルパークの活用を推進していく。

④ 児童についての内容（あいさつ運動等）

- ・あいさつについては、肯定的な回答をした保護者と児童の差が11ポイントだった。（昨年度比±0）今後は、学校だけでなく、家庭や地域においても主体的にあいさつができるように継続的に指導していく。
- ・外遊びや運動については、約8割の保護者と児童が肯定的な回答をしている。今後は、体育の授業をとおして運動の楽しさを味わせるとともに、体力向上につながる体育的行事をさらに工夫していく。

⑤ 児童についての内容（家庭での会話）

- ・家庭での会話については、保護者よりも児童の方が肯定的な回答の割合が少ないことが分かった。今後は、道徳教育を通して家族の大切さを考えさせたり、学校の出来事を積極的に話したりするように指導していく。特に、SNSルールについては、保護者と児童の肯定的な回答の差が28ポイントもあり、児童においては51%と低い状況だった。児童の意識を高く保つために家庭での話し合いを強く促していく。

⑥ 児童についての内容（学校生活）

- ・学校生活の楽しさについての質問では、9割以上の保護者と児童が肯定的な回答をだした。今後も学習、生活、行事等の教育活動全体を通して教育目標の実現を図り、児童が健やかに伸び伸びと成長していけるように、教育活動に尽力していく。

【教職員による自己評価結果】

返事や挨拶などの規範意識、配布チラシなどのデータ化、タブレットの活用、教職員の負担軽減（働き方改革）等が課題として挙げられた。規範意識の醸成のためには、日頃からルールを守ることのよさや気持ちよさを感じさせていく。タブレットの活用においてはICT教育推進担当教員を中心に教員のニーズに応じた研修を計画的に実施し、効果的な活用を図っていく。教職員の校務負担軽減では、通知表の押印欄を廃止したり、担任の学校徴収金業務の一部を事務職員と分担したりしてきた。今後も、子供と向き合い時間の確保のため、各行事の実施の仕方や適切な時数の管理を行っていく。

【小中一貫教育】

6年生の部活動体験、中学校の授業体験、あいさつ運動等の活動を行い、豊浜中学校の生徒と交流を深めることができたことについて肯定的な評価が多かった。今後は、小中学校間の学習指導、生活指導、キャリア教育等における共通理解を図っていく。また、キャリア・パスポートの効果的な活用法についても検討していく。

【いじめ問題】

学校いじめ防止基本方針に基づいて、毎週金曜日に生活指導夕会を行うとともに適宜校内委員会やケース会議を開き、いじめの早期発見、早期解決に向けた組織的な取り組みを行ってきた。今後は、校内いじめ対策委員会の役割を明確にするとともに、いじめ防止基本方針について全教職員に周知徹底していく。また、引き続き、いじめと判断されるような事案については、担任や学年だけに対応を任せず、校内委員会やスクールカウンセラー等も活用しながら解決を図り、保護者との連絡を密に行い、信頼関係を築きながら協力体制で解決に臨んでいく。

（2）根拠資料

- ・児童アンケート
12月に実施。重点目標への取り組みや教員の授業の振り返りができるよう項目を設定している。
- ・保護者アンケート
12月に実施。学校経営計画を意識した項目を設定している。

2 学校関係者評価

（1）総括

①成果

- ・地域や関連機関の方に改めて学校経営方針と本校の実態について理解をいただくことができた。
- ・客観的かつ外部からの視点で率直な意見をいただき、学校経営の参考となる部分が多かった。
- ・教育活動に外部の目が入ることで客観的な視点を意識することに繋がった。

②話題となった課題

〈学習指導について〉

- ・授業参観をしたが、児童が静かに教師の話の話を聞いている姿や楽しく活動している姿が見られた。
- ・ICT機器を使って指導している教員が多く、タブレットの活用が進んでいると

感じた。

〈特別活動について〉

- ・ひろばでも、3年生が下級生のお世話を積極的に行っている。学校の縦割り班活動の成果ではないかと思う。

〈その他〉

- ・学校生活を楽しいと感じている児童が9割以上いることは、とても嬉しいことである。
- ・不登校や登校しぶり児童の支援の様子が分かった。引き続き手厚い支援を望む。
- ・今後のPTAや地域活動については、親の世代のみならず、祖父母世代の協力を得ながら、新たな活動形態を模索していくことが必要である。

③改善策

- ・スクールカウンセラーや心のふれあい相談員、スクールソーシャルワーカー、民生児童委員、子供家庭支援センター等、外部機関との連携を図りながら、その児童や家庭のニーズに合った適切な支援を積み重ねていく。
- ・PTAや地域活動については、会員が主体的に活動できるようにこれまでの活動を見直し、工夫していく。青少年育成第六地区委員会とも情報を共有していく。

(2) 根拠資料

学校だより（記録）

3 評価結果の公表等

- ・学校だより「きらめく風」及びホームページを活用して評価結果を公表する。
- ・学校評価結果一覧などについてはc4thに掲示する等、教職員と学校評議員で共有を図っている。

4 次年度の学校改善へ向けた校長の見解

- ・学校教育目標の「心ゆたかな子ども」の具現化を図るため、道徳教育全体計画、学校行事年間指導計画、特別支援教育全体計画等を見直し、体験的な活動を取り入れ、児童一人一人の豊かな人間性や道徳性を伸ばしていく。
- ・個別最適な学び、協働的な学びの授業を充実させるため、タブレットの効果的な活用を図る。タブレットを活用した具体的な活用事例を共有できるように、OJT研修として実施する。
- ・学校・家庭・地域の三者が連携して児童の指導にあたる。幼保小連携・小中一貫教育を推進し、教育内容や教育方法などの連続性・系統性を高めていく。また、学校公開や学校評議員会等を通して教育活動や学校の取組などを積極的に公開する。
- ・道徳教育の更なる充実を図り、教育活動全体を通して互いを尊重し、共生する能力の育成に努めることでいじめの防止にもつなげる。また、生活指導においては、他者との心の交流の表れである挨拶について指導し、児童が気持ちよく過ごせる学校風土を醸成していく。